

## ■シンポジウム

### 「平和公園と豊川海軍工廠の語り継ぎ」

コーディネーター：藤田佳久氏

パネラー：泉田英雄氏、大石辰己氏（八七会会長）、伊藤泰正氏（豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会会長）、平松弘孝

藤田 後半の部に移らさせていただきます。大きな流れはですね、一番最初にですねこの平和公園が今日は一番のメインですからそれができるまで、それぞれの方々みんな深く関わりのある方であります。その方々からお話しをしていただきたい。それから後半はですね、今後この平和公園を中心としてですね、特に語りつぎの方々が公募の結果60人も頑張っておられるというお話を聞きます。そういうこともふまえてですね、今後どのような形で継いでいこうかということですね、その辺の大きく二つのテーマでお話しをしていただきたいと思っております。まず最初にですね、大石さんの方からですね、一番の大元である海軍工廠時代の御経験がおありになりますので、今日は初めてお聞きになる方もおられると思うんですけど、そういう点でですね海軍工廠時代、海軍工廠はどんなところだったのかというようなお話も少しお聞きたいと思っております。

大石 どうも失礼いたします。私は先ほど紹介にあずかりました、小石ではありません、大石辰己と申します。昭和19年、15歳で豊川海軍工廠の養成工五期生として入所いたしました。初めは学校の校長先生と教頭先生がある日夕方まいりまして、お前は海軍工廠に行ってくれと、ただその一言で決まってしまったわけですが、希望に満ちて入所いたしました。ところがやはり海軍でございます。海軍教育でございました。初め入った時には、ああお前らはこれから海軍教育を受けて立派な工具になるんだと、養成工になるんだと、将来指導者になるんだというようなお話を受けて、しかし五日、一週間くらい経ちますと、今度はお前らでなくきさまらになりました。きさまらたるんどっていかんとか、まあとにかく罰勅・罰



シンポジウム

勅、それでもう何といいますか15歳でしたけども、朝起床は5時でございました。それから朝礼いろいろいたしまして、消灯が確か9時だったと思います。寄宿舍から養成所はすぐ隣あわせでしたけれども、隊伍を組んで養成所に入った、そんなような事でございますが、寄宿舍の生活というのは本当に海軍精神注入棒といいまして、六角の檜の棒でございますね。1 m50cmくらいあると思いますが、それが海軍精神注入棒といいまして尻を叩かれるわけでありまして、その尻を叩かれるというのは、全て連帯責任でございまして、例えば学級で50人おりました。その中の一人、例えば寄宿舍の私は2階におりましたけれども、2階の中で一人でもおりますと全員罰勅でございます。そういうことばかりやっております、罰勅の種類を申しますと、バッテリー、それから海軍でございますから、廊下とは申しませんでした。すべて甲板でございます。甲板マット用意、雑巾がけでございますね。それから低空飛行、これは腕立て伏せでございます。それから鶯の綱渡りと言いまして、こういう何といいますか机にもたれてホーホケキョ、ホーホケキョと鳴いたり、それからひどいのは干しうどんといいまして、鴨居にぶら下がって落ちるとバッテリーで叩かれる、そんなようなつらいことがありましたけれど、しかしその中でも勉強はさせていただきました。本当に短い時間でありましたけれど、終戦になってからは厚生省の方から旧制中学卒業の証書をいただきました。まそんなようなことで、確かに厳しかったわけござ

います。でもその団体責任、連帯責任ということは、今になって考えてみますと、非常に生涯通じていい教育であったと私は考えております。中にはあんな教育を受けた、ひどいことされたから豊川の「と」の字も聞きたくないという連れもございませぬ。これは個々によって違うと思えますけれども、そういう教育を受けました。それから工廠、戦争が厳しくなってきました、勉強ばかりではございませぬ。廠内見学、廠内実習というようなことになってまいりました。まあこうしてみますと、同士の方もそこに見えますけれども、1級下の方も見えます。同じような環境だったと思えますが、私は五期生で1,500人位いましたけれども、本当にその中の千五百何十人分の一しか経験しておりませぬ。皆さんそれぞれと経験があると思えますけれども、まこんなようなことで時間が長くなってしましますけれどもどうでしょうか。

**藤田** 空襲の時のお話も少し伺いたいです。

**大石** 空襲と言えば私申し上げるまでもなく、まごめんなさいね。私は機銃部第二機銃工場に所属いたしてございまして、第二機銃工場の分工場が千両、赤塚山の東側にあるたしかノギ山と覚えておりましたけど、その麓にありまして、そこに行っておりました。それでその当日のことですけれども、ざっくばらんに申し上げますと、私はトイレから出た時に空襲警報、サイレンが鳴りました。もうその時はすでにP51戦闘機が機銃掃射をしておりました。私はちょっと高台でしたから、その艦載機の旋回する、もちろん機銃掃射は分かりました。旋回する時に飛行機がかしみますが、だから操縦士ともう一人後ろ、二人乗っていることをはっきりと目に映りました。私も子どもでございませぬ。今考えますと道ばたの石を拾って、バカヤロー帰れ、バカヤロー帰れと言って、その石を投げておった。今考えるとばかばかしい話でございませぬけれども、当時の本当の心境でございませぬ。まだ空襲警報のサイレンが鳴り終わる前に大恩寺山の方を見ますと、B29の編隊がごうごうと来るわけ、本当に白く光っておりました。それともうすでに爆弾を落とす、その爆弾を落とすと次に私

の目に映ったのは爆弾が落ちる、爆炎がおきますね、その爆炎が私の視線にあるのです。その爆炎の上にまだ何かと思えば、ドラム缶やら人間が飛び上がるんですね。そしてその人達が落ちる。その繰り返しで、本当に私の目に映ったのは北門へ、あの当時逃げるという言葉は絶対使っておりませぬでした。避難する、退避する、待機するということでございまして、北門に退避してきた連中がはよ来い、はよ来いと本当に大声で呼ばっておりました。しかし西門の方向を見ますと、すごく爆弾が落ちてもうみるからにも悲惨な姿が目につかぶわけですがね。それですから私は空襲、B29がもうこれで終了だと思った時すぐ西門に走りましました。そしてやはり西門に入ったところが、すごい死人の山でございませぬ。先ほど聞かしていただきましたけれども、守衛が門を閉めてしまったんですね。そこへ避難してきた者が固まってしまった。そこへ爆弾が落ちてしまったから、すごい被害者が出てしまったわけです。私が行った時にはもうすでに何ていいますかね、その状況は前にも話したことがありますけれども、私が養成所当時に柔道の先生やっておりました先生が私を覚えてございまして、私は体が小さくてございまして、チョビ、チョビといわれておりました。チョビついてこい。言われてその姿を見ましたら、先生は女子の挺身隊だと思います、女の子頭の毛長いんですね、その髪の毛を束ねまして二人の首、4体を提げておりました。それについて来いと言ったからついてこうとするんですが、怖くなって私正直逃げたしまいました。そしてさあ助けようと思ったところ、助けるどころではございませぬ。私は逃げ回っておりました。本当に首はごろごろ転がっている。それから手足は落ちていませぬ。まともな姿をした死骸は本当に少なかったんでございませぬ。中でも今でも目に浮かぶのは、内臓が出て、その内臓を手でつかんでうー唸っている。そんな姿、それから女子の挺身隊の姿は分かるんですが、空襲で爆弾が落ちると伏せませぬ。その伏せるのが遅れたばかりに、その女子の挺身隊の若い子でしたけれども、その子たちがかなり大勢の人達でした

けども、当時はモンベ姿でございました。モンベは破れてしまい、尻が何て言いますか取られたっていいですか、真っ赤になっておるわけですね。それはやはり爆風と爆片でその伏せるのが遅かったために尻があがとって取れてしまう。そんなような事ばかりで本当に私逃げ回るとたんですが、それで私第二機銃工場でしたから、第二機銃工場の方へ走って行きました。ところが今でも覚えています、一般工の辻という方がいまして、あ辻さんだと声をかけたんですけども、フラフラフラしとってもう何も答えもせず、聞こえもしなかったと思います。そんなような姿ばかり見まして、もう怖くなって逃げ回った。夜になってあの当時どういう連絡で私に命令が下ったか分かりませんが、不寝番に立つということで私が今でも思い出すんですけども、消防の手押しポンプがありました。その横に飛ばされて朝まで不寝番いたしました。周りを見ましたら犠牲者が死骸がいっぱいありましたけども、怖くはなかったんです。でも誰かいるだろうと横見ると、遠くに見えるんですけども10m間隔くらいで一人ずつ立っておりました。まそんなようなことで朝まで勤めて、他のことは細かいことは分かりません。二日目、三日目になると防空壕で生き埋めになった方がございます。それを助けるため掘り出しますわね。ところが10人、20人と入っております。みな亡くなっております。でも、あ、おったと言って一人見つけて出そうとしても出ないんですね。何故出ないか。みな肩を組んで体がひとかたまりになっているんです。それだから私の記憶では、ロープを掛けて無理矢理引きずり出した。こんなことは、今でも思い出します。本当に生き地獄と言いましょうか、もう怖いとか悲しいとかそんな記憶全然ございませんでした。それで三日、四日経ちますと、大体何といいますかね、この腕が腿太くらいの太さになって夏でしたから、それが弾けると水が飛んで出る。きれいな白い水でしたけど、そんなものは構っておれません。それでトラックで収用にくるわけでございますが、トラックに載せて諏訪の墓地になっているところが、工員養成所の昔の

防空壕でございましたね。防空壕たち割って埋めたわけでございますが、それと私がおりました千両のノギ山の麓に大きな穴を掘ってそこにも埋めた。二箇所埋めたんですけども、そこにトラックが運ぶ。その帰りに、その筵の上におにぎりがいっぱい積んであるんですね。そのおにぎりをほおってくれるわけです。だからその死骸を扱っているきたない汚れた手で受けてそれを食べた。今ではとても考えられないことでもありますけれども、それが実態でございました。おそろしい生き地獄でございましたけれども、今になってこれを申し上げていいのかとも思いますけれども、西門の入って右側にコークスの山がございました。そのコークスの山に火がついて、そこへ亡くなられた手とか足を言葉悪いんですけど、ほおりこんで、投げ込んで燃やしたんですわね。その5日か一週間後でしたかね、牛車で遺骨箱がどんどん入ってくるわけです。その時も何故か私が灰を入れる役目を命ぜられました。だから流れ作業でございます。遺骨箱が来る、私は灰だかなんだか分かんいですね。それを少しづつ入れる、次いくと亡くなられた手と足の骨を叩いてそして入れる。これが遺族の方へ届いたわけでございますわね、むごいことでございます。そんなことは本当に当時では言葉に出せなかったけど、絶対に言えませんでしたけど、そういうのが戦争のみじめさとか、当時誰もみな語ります戦争の恐ろしさ、殺さなければ殺される。それが戦争でございます。そんなようなことで本当に恐ろしいめを見た私がですね、生き残りでございますけども、まだ後世に伝えていきたい気持ちもございますけれども、なんせ声涙俱に下るといいますか、こうしても思い出すだけでもどうしてもその当時の制服・制帽、15歳、16歳の時の姿が思い出されてとても歳とともに涙腺が弛んできたといえますかね、いろいろとございませうけれども、また時間がありましたら話させていただきます。

**藤田** 大変なご経験をされたということで、貴重なお話しありがとうございます。今度の平和公園を造るにあたりまして、今も亡くなった方の話

がありましたけれど、その方々の名簿をですね、市の方で整理された経緯があるようですね。その点を平松さんの方からお話しいただけますか。

**平松** 平和公園がこれでオープンしまして、豊川海軍工廠の歴史を語り継いでいくという活動を行うわけなんですけど、その歴史の語り継ぎという中で、例えば平和公園につきましては、戦争遺跡を保存して後世に伝えていくという役割もあると思いますし、例えばモノでいけばいろんな資料がですね桜ヶ丘ミュージアムの方で収蔵されて毎年海軍工廠展が行われたりしておりますけれども、その中で今大石さんからお話がありましたとおり、8月7日の空襲で大変な出来事があってたくさんの方が亡くなっている。それは豊川市の歴史の中でもとても大きな出来事であって、その礎のもとに私達がこういう平和な生活をさせていただいていると思うんですけど、平和公園がオープンするにあたりまして、やはり亡くなられた方のお名前等ですね、そういったものをどこまで明らかにできるかというのは、なかなか限りある資料の中で限界があるわけなんですけれども、藤田先生の関わられた豊川市史の近代編の中でも2,670人位ですかね、亡くなられた方の数字があるんですけど、それを再度確認する形で同じ資料を元にしまして、名簿を作成させていただいております。平和公園の中の平和交流館ロビーにですね、平和の像、豊川の野球場の南にありますけれども、昭和40年の8月7日に八七会さんによって建てられた平和を祈念する像がありますけれども、そのプロトタイプといたしまして、大きな銅像を作る前の試作品といいますか兄弟像といいますか、そういったものが豊川市役所にあったんですけど、それを今平和交流館の方に移してですね、飾らせていただいております。その平和の像のプロトタイプの前に、お亡くなりになられた方々の名簿が、2,724名分の名簿を置かせていただいております。2,724という数字はですね、豊川海軍工廠の空襲は8月7日以外にもあまり知られていませんが、5月19日に指揮兵器部付近に落ちた空襲があります。そこで亡くなられた方というのは、証言によると40人

だとかもっと多い数字もあったりするんですけど、なかなか明らかにすることが難しいんですけど、今申し上げました2,724というのは、8月7日の空襲も5月19日の空襲も亡くなられた方の意味に違いはありませんので、それらを含めましてお名前が各種資料で分かる方についてまとめさせていただいて、交流館のところに置いてあります。それは交流館の事務室の受付の方に申し出ただけであれば、平和の像の前に置いてあるのはアクリルのケースに入れてあってその場では見られないのですが、同じものが受付で言っただけで見られますので、また皆さんお時間あれば見ていただければと思います。以上です。

**藤田** ありがとうございます。浜名湖近くの都田とかそっちの人も入ってるのかな。これは豊川ではないけれど。帰りに落としたいだけけれど。

**平松** 今先生仰られた、都田、浜松の浜名湖の北側ですね、都田地区というのがあって、豊川の空襲で落としきれなかった爆弾、B29がそのまま自分の基地に帰って着陸する時に爆弾を積んでると危ないもんですから、そういうのって途中で落としていくことが多いんですけど、豊川空襲の終わった後に浜名湖の北側を通った時に、都田地区で爆弾を落として3名の方がお亡くなりになられてますが、そういった方のお名前も入れさせていただいております。あわせてあと豊川海軍工廠の手前で御津駅近くにもたくさん爆弾が落ちておりますが、確か33名の方がお亡くなりになっていますが、そういった方の名前も含めて名簿を作らせていただいております。

**藤田** 空襲に関わる総合的な人数ということですね。どうもありがとうございます。そういうわけで亡くなられた方も非常にたくさんでご冥福を祈りたいと思います。また、あわせてその爆撃によってたくさんの施設、工場を中心にですねやられてしまったわけなんですけども、戦後の豊川の復興の中でいいますと、施設が非常に広大であったが故に、またアメリカ軍が狙った場所が西南部に集中したが故に、被害を間接的にしか受けなかったところがあり、それが豊川の戦後復興にある部分

役立った面もあったのですね。戦後ここへ進出しようとする企業の方も骨組みが残っているところはそのまま使えるため経費が安く済み、また、機械が揃ってますから、その機械を使ったら安く効率的にできるんじゃないか。企業側にもいろんな思惑があったようです。そうやってきますと海軍が造った構造物というのはどういうところに特徴があるのか、そのへんのところは泉田先生の調査で何かお伝えできることはありますでしょうかね。

**泉田** 戦争の建物、その中でも今回残った火薬庫、これは本来は身近にあってはいけないもの、当然普段、通常今でも見るができない、自衛隊なんかで持っているものであって、見るができないのですよね。そういうものが今回修復されて、身近で見ることができるようになった、なんかとっても不思議な感じというんでしょうかね、私の感覚です。今から146年前、岩倉使節団がイギリスに行って、兵器生産工場、アームストロング工場とか火薬兵器の工場を見て、富国強兵の道を進むにあたって工場を日本でも造りたい、きつと教えてくれるだろうと期待して行ったら、工場長が何と言ったかというんですね、ここは人を殺す装置を作ってるんだ。最も恥ずべき製品を作ってるんだ。本来はあってはいけないんだと工場長が岩倉たちにですね言うんですね。冷や水を浴びせられて帰って来て、そういうものであるということをも十分認識してもらいたい、岩倉たちの一部は分かっていたとは思いますがね。だんだんと第一次世界大戦、第二次世界大戦を経るにしたがって、日本は軍部においても兵器を作るという意味のことの重要さというんですかね、だんだんと崩れていくのかなと思ってはいます。ただ建築に関して、兵器庫とかいうことに関しては、非常に完成された建物です。戦時中に造られた建物であったとしても、非常に材料とか入手困難な状態であっても、完成された建物を造ってます。火薬庫が驚いたのはですね、火薬を扱う、当時簡単には空調をいじることではできませんので、自然な原理で断熱ですね、あと通気を施すわけですけども、

それは戦時中考えられていた最高の自然の原理を使って造られています。換気塔の中のしくみですね、実は作られた状態のやつが1個は完全に近い状態で残っていたんですが、現在工場建築としてああいう換気塔を造っている会社がおそらく1社はあるんです。ほぼ同じ仕様で今でも造られてるんですね。できるだけ高さに関しても、自然換気の換気塔、仕様としては戦前のあの時代もう完成されたものが出来ていた。それもあそこにはそれが使われていた。あとロックウールの話もしましたけれど、1938年に開発されて国産化できるようになったものが、すぐにあそこで使われているんですね。そんなことを考えると、当時としては最新、火薬庫に関しては、当然身近にあってはならない建物であって人を殺すものであるということには心得て、私たちも、ボランティアの方も語り継ぐにあたって、そのへんのことを良く説明していただきたいと思います。以上です。

**藤田** どうもありがとうございます。こういう形で保存をですね、進めるという動きが出てくるわけなんですけども、次は伊藤先生にこういう保存の会を立ち上げて進めて来られた経緯ですね、そのあたりご紹介いただけますか。

**伊藤** 跡地保存をすすめる会の立ち上げが今から22年前になるわけなんですけども、きっかけというのはそれぞれ会の結成に集ってきた人、一人一人の思いが違うところがあったんですが、私個人の思いとしてはですね、平成3年に豊川高校に社会科の教員として赴任をしました。豊川高校もこの地域の小学校・中学校・高等学校どこもですね、海軍工廠とのからみのある学校が多いわけです。豊川高校もですね、旧制中学の時代に学徒動員で豊川海軍工廠に働きに行き、6名の尊い命を失っています。そんな関係で豊川高校では、私が赴任をする随分前から8月7日を全校登校日にして慰霊祭を学内で行ってきました。そういった学校に教員として赴任を、しかも社会科を教える教員として赴任をしたわけですね。通常社会科の授業ではなくて、地域から歴史を学んでもらいたいということで、私達の先輩の教員たちが苦勞して作っ

た郷土という授業がございました。私その郷土の授業を教えないといけない立場になったのですが、いかんせん生まれが岡崎なものですから、豊川の歴史はとんと疎いと。そこで教えるにあたっていろんなところにお話を聞きに行くんですが、そういう中で戦前・戦中・戦後史のところを教えるにあたっては、海軍工廠のことをどうしても外せない、そこでお亡くなりになられたんですけども、八七会の前会長の彦坂実さんのお宅へお邪魔いたしまして、工廠のことをいろいろと聞いた。それが実は私の工廠に関わる原点だと思います。そしてこのすすめる会が発足をした私個人のきっかけというのは、やはり終戦50年の年に豊川高校の生徒そして教職員、保護者の方々、そして地域の方々を加えて、合唱構成詩を作り発表した。これがやはり心の中に響いています。その合唱構成詩を作るにあたってやはり詩をこう一つ一つ、一篇一篇作っていくのに、やはり学習を積み重ねながら、時には工廠の跡地の見学に行ったり、または体験者の方のお話を聞きに行ったり、こういうことを繰り返して、概ね半年に及ぶ学習を繰り返した上で、詩が完成していきました。私も詩を作る過程の中での学習というのが、その後のすすめる会の活動にも生かされているかと思っています。そういったところで、いろんな方の思いをたくさん知ることになりまして、個別に工廠のことをなんとか伝えていきたいと思ってみえる方が随分たくさんみえるんだなということを私自身も分かりまして、そういった声の一つを集める、こういった組織が必要でないかなということを思いました。それがすすめる会を立ち上げる理由ということになります。それから八七会の大石さん、亡くなられた彦坂さん、それから語り部でずっと語ってきてくれた大勢の体験者の方々の思いが、やっと一つの形となったのかなと思っています。

**藤田** どうもありがとうございました。豊川高校の地域活動といいますか、そういうものがベース、起点にあるというお話もよく分かりました。ところで今度の平和公園に関しましては、今日ご挨拶いただいた山脇市長さんの10年前の公約が発端に

なっているわけです。その後それがいよいよ具体化するようになっていくわけですが、そのあたりのプロセスですね、そのへんを平松さんの方からお願いできますでしょうかね。

**平松** 先ほどの私の基調報告の中でも結構触れさせていただいたので簡単にですけれども、平成19年に山脇市長が当選されまして海軍工廠跡地に平和公園をとという公約がありまして、その後教育委員会の方ではですね、平成21・22年に戦争遺跡化していたのは周知の事実ですけれども、そこにどういった遺構があるかですとか、詳細なデータがなかったものですから、21・22年に調査を行って、その翌年に報告書の取り纏め、一般市民の方への報告会を行いました。それで工事が具体化していったのは、藤田先生が委員長を務められた検討委員会が平成25年に設けられまして、その後26年以降に計画・設計づくりがあって、28・29年度に整備工事が行われて今年度開園したようなプロセスになります。以上です。

**藤田** 遺構調査に関してですけども、例えば日本車輛とかいろんな大手が入っていますが、工場の中にも遺構が依然として今もあるんでしょうかね。そのへんの状況はどうですかね。

**平松** 調査自体は21・22年度の名古屋大学の豊川キャンパスの敷地を中心としましたけども、豊川海軍工廠の近代遺跡として全体を捉える意味でもですね、工廠跡地にあります民間企業さんですとか、自衛隊の中にも入って残っている建物の悉皆的な調査をしております。それが私の先の発表でもお話ししましたが、例えば日本車輛さんの工場ですとか、旭メタルズさんですとか数が少ないながらも、まだ民間工場さんの中にもいくつか残っております。

**藤田** そうというのは普通の人は入って見るなんてことは難しいんでしょうかね。

**平松** そうですね。敷地の外から覗けば見られますので、皆さん遠巻きに不審者と思われぬように見ていただければと思います。

**藤田** ということですので、ご関心のある方はぜひ。企業の方もそういう情報を出してくれるとい

いんですがね。というわけで今日に至ってきたんですけれども、こういうような平和公園のプランが動き出したということ、例えば大石さんはどういうふうにお感じになったんですかね。

**大石** ちょっと空襲のことで一言申し上げたいことがありますけれども、20年5月19日に確かにB29、24であったかもしれませんが、指揮兵器の方に1機来て爆弾を落としましたことがございます。この時も被害がありました。付け加えさせていただきます。ただいま言われましたように平和公園ができるということは、これは私鮮明に覚えています。平成22年10月7日、八七会の役員会をしておりました席上に、平松さんはじめ3名の方がお見えになりまして、こういうわけで公園を造る計画があると言われて私一つはびっくり、本当に真から嬉しいなあという実感でございました。それから今日に至ったんでございますけれども、その時も同士の方々達も、どこにできるかもその時不明でした。けどもこういう公園ができるということに対しては本当に何と言いますかね、私たちでは言葉で表すことのできない嬉しさとか、喜びがあったのでございます。これは私も子どもにも孫にも話をしても分かってもらえません。この気持ちは。でも本当に期待をいたしておりました。市長さん、行政の方々のお力で今日があるということは、本当に私長生きしてよかったなということも感じております。ただその時の感じといたしましては、本当かなあ、造ってくれるんかなあ、できるんかなあ、これが実感でございました。

**藤田** それぐらいの長い時間があったということですね。どうもありがとうございます。同じように伊藤さんの方は、このニュース・情報を聞かれてどのように思われたんでしょうかね。

**伊藤** やはり跡地保存をすすめる会のネーミングで会を立ち上げてますが、会員の方からはどのような形で保存ができるのか、またどういうふうアプローチをしてくのか、いろいろご意見をいただいたり、今どういう活動をしながら保存の方向性を見出そうとしてるのか、いろいろと要望といえますか、想いはひしひしと毎年のように伝わっ

てきまして、そういった声がありながらもですね、具体的な方向性が見いだせないまま、10年程すぎたその時に、現市長さんが公約に掲げて市長になられた。これが一つの光と言いますか、これで何とかいい方向に行けるんじゃないかなとそんな想いを持ちました。実際に公園を造るにあたっての検討委員会を立ち上げるという話を聞いた時には、やはり想いを寄せてくれた会員の皆さんにやっという報告ができるなど、そんなのである意味ちょっとほっとしたという感じもあります。それと同時にその先のことをちょっと思いまして、どのようにこの公園が活用されていくのか、そこがこれから問われてくるんじゃないかなというのも頭をよぎった、そんな記憶をしています。

**藤田** 最初の委員会の時も、最初の原案が出て来た面積が、必ずしも広くなかったんですね。それをあの委員会で大きくしたんですけど。

**伊藤** 最初2ヘクタールというお話で、今みたいに二つの建物をという話ではなくて、火薬庫の方だけを公園に残してという話でした。私も出来る事なら、名古屋大学の研究所全面的な保存というのを声に出していたんですけど、当面残すにあたってやはり工場群としてあそこに建物が連続して建っていることに意味があると思いますので、せめて2棟連続してその建物群としての一画が見える、そんな保存が最低限望まれるんじゃないかなという、そんな意見を言った覚えがあります。

**藤田** はい、ありがとうございます。名古屋大学も法人格となってまして、お金に関わるという問題がありまして、そういう点では豊川市も御苦労された、そういう経緯があると思います。というわけでいよいよ保存という問題が浮かびあがってくるわけですが、泉田先生このへんのところ、どう今後保存していったらいいのかという建物との関わりですね、お知恵とか考え方とかありましたらお願いします。

**泉田** 海軍工場があったということを考えれば、できるだけ広い面積を、様々な各種の種類の多い構造物を残して見せる、公開するのが理想だとは思いますが、すでに民間の会社が土地を取

得して活用されている、使っている、簡単にその土地を借りる、あるいは構造物をこういう由来のものであるから公開する協力をお願いするというのはなかなか難しい。見せるということ自体会社の中に入れることですから、難しいことも十分分かります。ですからある範囲を限って整備して見せる、それも常時勝手に入っていいわけではなく、今回の場合は案内の人が必ずつくという条件のもとで公開保存するということになりました。これはあれだけ広いものですから、2棟であっても意義のあったことかなと思います。欲を言ったらきりがないので、公園として使う市の財政も含めて、利用形態も含めて、適当な大きさ、物件の数かなと思います。ただ平松さんが今後の予定のこともお話ししましたが、できれば工場もっている、民間工場もっている構造物ですね、理解を得ながら、年に数回の見学会にコースに入れさせてもらうというようなことがあってもいいかと思っています。それより私は気になっている、さきほど話もしましたが、土塁なんか一部崩れていますし、あと信管置場の外に出てる鉄の部分に錆びがあったり、破損があったりもしています。跡地保存とすればですね、できれば元のしっかりとした鉄とか形に直してということがあり得るんですけど、私もさっき発表しましたように時間経過をお見せすると、必ずしも形よく新しい材料に置き換えることが今回の場合特にですね、保存の在り方ではないのではないかと考えています。今後いろんな方が見に来ていただく、市民の方だけではなく、こういうものを抱えている地域の方々ですね、どういう考え意見をお持ちなのか感想とかなんか、ちょっと私は知りたいと思っています。一つあり方とすれば、皆さんどうでしょうかね。錆びとか、少なくともそういうのがあったとしても崩落しない、あと中に雨が入らないということは十分検討して直しました。けどもやっぱり一部の人が見れば、なんか錆びが出て朽ちているねって言われることもあり得る。文化財とするとちょっと、史跡ですけども、ちょっと手法とすればかなり異色なやり方をとりました。以上

です。

**藤田** どうもありがとうございます。こうして平和公園ができあがったんですけども、出来上がりのお気持ちを大石さんと、伊藤さん簡単に表現していただけますか。

**大石** 私もこのあいだの9日に開園式に参加させていただきましたけれども、本当に感激いたしました。ただただ私は感謝、感謝、ただ嬉しいの一言に尽きるのですが、あの姿見た時に、まあ先ほどから皆さんから話がありますように、火薬庫、第三信管置場、あの姿、本当にあの時もちょっとお話ししたと思いますけども、一皮も二皮も剥けておりますわね。あの変わった姿、まさに平和の象徴でございます。あの壇上に立ちましてあれを見た時、本当に嬉しいというのか本当に表現ができないんですけど、本当に感動いたしました。そしてかなたを見れば草木が生い茂っている、あちらはそのままだな、73年たってもああいう姿だなと、本当に両面あそこで感じることができました。本当に言葉にならないんですけど、感謝、嬉しかった、本当にそう思いました。同士の方もおりましたけども、多分同じ考えでおったと思います。これからのことは私たち八七会としましても、先ほど言われましたように私も89歳過ぎました。会員も本当に少なくなりました。だから何を、こうするということはできません。でも私個人としては、これを語り継いでいくと、それから市長さん、行政の方々が造ってくださったこの公園を、みなさんに紹介したいという気持ちで十分でございます。それで昨日も実はある老人クラブの会合によばれまして、その場で公園のできたこと、これは豊川海軍工廠平和公園という名称でございますと、こういうものでございますと説明いたしました。皆さんそんなものができたのかと、それで付け加えまして現地にできたのは広島と長崎とそれから豊川だけだそうでございますと、宣伝マンでございませぬけども、そのくらいはできるだろうと思ひまして、それは話してきました。名古屋市ではいろいろクラブがございませぬ。私は毎週火曜日にはその方へ出席しております。そこでも

皆さんに公園のできていること、今後みなさんむこうへ行かれましたら、一目見てくださいと、それから資料もご置きます。そういうことでよく理解できますから、そのくらいのことをご置きます。

**藤田** ありがとうございます。それでは伊藤先生。

**伊藤** 私もですね会を立ち上げて以降、本当にできるのかどうかというのも全く手探りの状態で会をスタートしましたので、まさかこういう日が来るとは思っていなかったと言ったら会員の方に怒られてしまうんですけども、本当に実現したということは嬉しく思うと同時にですね、検討委員会なんかにも参加させていただいた時に、いろいろ行政の方がプロの仕事をしているのを間近で見せていただきまして、公園を一つ造るというのは、造って終わりじゃない。そこから毎年毎年公園を維持管理していくランニングコストが当然かかってくるわけで、やはり造ったからにはそれが市民に供されて有効活用されていかなければ、市民の大事な税金を使っての公園ですから、ここから先が本当に正念場なんだろうなっていうのも一部思いました。今日ここに来る時に公園の方にちょっと寄ってきたんですけども、まだ開園して間もないものもありますけど、駐車場もほぼいっぱい、大勢の方が家族連れで訪れている。ボランティアガイドの方が何人か案内をしている。そんな姿を見まして、こういう姿がこの先続いていくことが本当に大事なんだろうなというふうに思いましたし、やっとスタートについてのかな、そんな気持ちで嬉しいと同時にですね、この先のことをまた公園のあの場に立って思うしだいです。

**藤田** ありがとうございます。こうして完成した平和公園ですけども、これをどういうふうに、あるいは歴史的な過去の経験を伝えていくかということに関しましてはボランティア制度を作った。これは最初は10人くらいあればいいんじゃないかと思ってたら、なんと60人を越えたというようなことでして、このへんのところが市民の方々の熱意といいますか、あるいはこうあって欲しいといいますかね、こういう気持ちが表れたんじゃないか

なと思うんですね。そのへんのところを直接携わってこられた平松さんの方からお願いします。

**平松** 平和公園が開園しまして公園行きますと青い服を着た方、ボランティアガイドさんが何名か見えて、すごく丁寧な親切なガイドをしていただけてます。平成29年度にですね、1年かけて全10回の講座を開催させていただきました。全10回やると大変かなということもあったんですけど、やっぱり歴史を正しく学んでいただくとか、これくらいはやってもいいのかなとか、ちょっとどうかなと思いつつやらさせていただいたんですけども、一番記憶に残っていますのが、最初の講座の時にですね、だいたい私もこういう歴史講座をたまにやる時があるんですけども、私のお話が下手だっというのもあるんですけど、中には寝る方とかですね、だんだん集中力がなくなるとあるんですけども、今回ボランティアさんの養成講座やらさせていただいた時にすごく集中力が、皆さんの視線がですね自分の方に向かってきている、こんな講座やったことがないなというのが本当に実感でした。今日もボランティアの方何名か来ていただけてますけども、あの正直言ってその期待は裏切ってはいけなないというのが講座を担当した者の気持ちだったんですけども、その講座を受けていただいた60名を越える方がですね、平和公園のガイドに参加していただいております。私ども教育委員会生涯学習課、私ども文化財の保護を担当しておりますけども、なかなか多い人数でやっているところではなくて、なかなか少ない人数で語り継ぎというのは正直限界があります。その中でボランティアさんにご参加いただいて、今は実際ガイド活動を行っておるわけなんですけれども、ボランティア活動の中では資料整理ボランティアみたいなこともやらさせていただくという形で要項を作らせていただいておりますが、今後は語り継ぎの仕方というものいろいろあると思います。平和公園に来ていただいた方にその場の雰囲気、場の持つ力を感じていただいて、かつてあったことを知っていただいて、平和について考えるというやり方もあ

ると思いますし、資料整理したりして記録として残して語り継いでいくというやり方もあるかと思ひます。とにかく平和公園開園してですね、これでまだ短期間なんですけども7千人を超える方がご来園いただいております。その中でもかつて勤めていた方をお孫さんが連れてこられたりだとかあります。やっぱり昔の思い出がある場所、さきほど大石さんの話の中でもう来たくはないという方もお見えになるかと思うんですけども、それでもまた来てみたいという方が来て、昔を懐かしんでいるという光景を見ますと、まだ何となく歴史にはなっていないといひますか、まだ記憶といひますか、表現が適切か分かりませんが、今が思い出、記憶から歴史に変わってくちょうど節目かなと思うんですけど、その中で歴史になってしまうと当時体験した方もいなくなってしまうと、なかなか当時の状況を伝えていくというのは難しくなると思ひますので、その中で語り継ぎボランティアの方に一緒に活動していただひて、今後より良いですね、活動につなげたらなというふうに思っております。ただまだ公園開園したばかりですので、ガイド活動で皆さんご足労いただひて、今も試行錯誤してやっている段階にありますので、うまく軌道に乗っていった段階では、少し幅を広げるなり新しいこともできればなというふうに思っております。

**藤田** ありがとうございます。それぞれのご出席の方々も語り継ぎに関してですね、ボランティアの方々にも思ひがあると思ひますが、時間がきておりますので、本日御出席のボランティアの方、何人くらい来られているんですかね。威勢のいい方ちょっと一言。お名前を。

(豊川海軍工廠語り継ぎボランティア井上直正氏)  
私、語り継ぎの井上直正と申します。頑張ってます。ただ2週間なんですけどもいろんな問題も出てきてまして、伊藤先生に教職の立場でお伺ひしたいんですが、学校ガイドですが非常にやりづらひ、あの軍需工場なんて言葉が難しい、薄めてしまうと伝わらない部分も多いんですよ。そこが今課題かなと思っておりますので、もしよろしければご助

言いただければと思うんです。

**伊藤** 子供たちに伝える伝え方っていうのは、発達年齢段階ごとに異なりますので、必ずしも大人に向けて語る語り口や語る内容はですね、小学生や中学生にそのまま適応できると思ひない方がいいと思ひます。かといって咀嚼してですね薄めることはいけないと思ひますので、一つはですねこういうその学びというのは誰かから教えられたことで、はっと気づくことはありますが、やはりあの語り継ぎの本道というのは、世代を超えて次へ次へ語り継いでいくものであると思ひます。ですから1回2回の来園で全てを語ろうとは思ひないでもらった方がいいと思ひます。今日はこれを一腹に落として帰っててくれていいよ、というように感じで質を落とさずに量を減らした方がいいと思ひます。そして関心をもったその子供たちが、その少しずつ発達していく中で小学生だった子が中学生になったら受け取れるものもあると思ひますね。中学生が高校生になって受け取れるものもあります。さらには社会人になって大人の責任ある立場になったからこそ初めて理解できるものもあるんですね。ですからそういった学びのきっかけというものがあるって、そして時々ですねはっともういっぺん学んでみよう、あの時教えてくれたことをもう少し広げてみようといった時にあの公園であり、交流会館であり、それから資料をたくさん保管してみえる桜ヶ丘ミュージアムが非常に生きてくると思ひます。ですから子供達にはですね、学んだことを僅かでもいいから人に伝えてもらう、それこそ語り継ぎですね、学んだことを誰かに伝えるということをやると、伝える時には人の何倍も勉強しないとけないので、腹に落ちると思ひます。ですからガイドされる方々は、ぜひ今日勉強したことをお家に帰って、又は回りの友達に伝えてあげて下さいということを一語添えていただくといいかなと思ひます。

**藤田** どうもありがとうございます。ボランティアの方々のいろんな感じ方、問題点も感じていると思ひますね。そういうようなことは平和公園の方で吸い上げる仕組みもいるかなと思ひまし

た。今最後に出た桜ヶ丘ミュージアムとの関係も、立体的につながりが出せるようになってきたという点では、今回桜ヶ丘ミュージアムは議題にならなかったですけど、あそこもこれまでの長い歴史の中でたくさん蓄積してますので、そのへんのところをうまく連動するという方法もあるかなと思いました。今日、一般の方もたくさんお聞きになってると思うんですね。今日の感想、あるいは実際に現地へ行かれた時の想い、あるいは感想、あるいはこういう問題点みたいなのところがありましたら、ぜひとりあえずは平和公園の方の事務所がごございますからそちらの方へ申し出ていただいて、より多くの人に愛される、身近に感じてもらえるような場所として成長させていったらいいんじゃないかなと望んでおります。もう時間がきてしまっていて、今日は長時間にわたりまして私のつたない講演から始まりまして、皆さんの立派な講演、そしていろんなご意見をいただくチャンスができました。これは大変素晴らしいことだというふうに思っております。これを機会に皆さんがそれぞれ豊川の歴史的な原点ですね、これに関して公園をもう1回きちんと見直していただいて、今後の豊川のあり方に関して少しは考えたいような機会ができたらいいなというふうに思っております。最後に、今日ご出席の皆さんにお礼の拍手をお願いします。